

# 同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

3  
2016  
MARCH

山形県中小企業家同友会  
月刊 同友  
やまがた

30  
th



## 創立30周年記念式典

記念講演「つぶれない会社のつくり方」

### 第46回中小企業問題全国研究集会

人を生かす経営の実践で、地域の明るい未来を創りだそう

### 経営指針を知る会開催

経営計画づくりを考え合い経営指針づくりを学ぶ

山形同友会  
創立30周年！  
より地域に  
必要な存在へ！！

2015年度スローガン

# 記念講演 「つぶれない会社のつくり方」

講師 中小企業家同友会全国協議会 専務幹事 松井 清 充 氏

30周年おめでとうございます。資料に“波乱万丈の2016年の幕開けです”と書いていますが、山形県の人口は、2040年に28.5%、83万人まで減ることだけは確実です。ということは、得意先や市場が3割減るということ。今までの皆さんの会社のサービスや価格を、あと3割上げないと今の市場が維持されません。また、この危機感を共有しないとピンチをチャンスに変えられません。

戦後の日本は「経済がうまくいけば幸せになる」と、1946年のGDP5181億円が1990年には442兆円と854倍になりました。ピーク時には523兆円です。結果、物は豊かになりましたけど、心は豊かになったのでしょうか？東京に一極集中したおかげで、山形市を含めて地方都市はピンチになってきたのではないのでしょうか。人間にとって働きがいのある仕事をして、自然もあって、文化もあって、それで地域が元気になることが一番幸せなのではないのでしょうか。私は、これが今後の日本への問いかけではないかと思っています。

戦後すぐの、電力がない・材料がない・金がない、ないないづくしの中でも作れば売れた時代。問題は働いている人が敵になった時代でした。そんな中で同友会のメンバーが集まり、統一労働契約書を結んでいきました。最後まで合意できなかった業種は全員つぶれました。つぶれていく仲間を見ながら、どうしたらつぶれない会社ができるのかと、18年かけてまとめたものが労使見解です。

労使見解のはじめに「われわれ中小企業をとりまく情勢や環境は、ますますきびしさを加え」とありますが、同友会の創立以来ずっと厳しい環境が続いています。まずはこの現状を受けとめる覚悟をもたないかぎりよくなることはありません。

また当時は、労働者や労働組合は敵としての立場から話し合いを始めましたが、“共通のものさし”を作る必要がありました。“共通のものさし”とは、「なんの為に働くのか・誰のための会社なのか」という経営理念であり、これを明確にしないかぎり話が進みませんでした。ここで経営理念が大事だとわかりました。

それから経営者である以上、いかに環境が厳しくとも環境の変化に対応して、経営を維持し発展させなくてはなりません。ただ、社員の生存を大事にする経営をしないと、社員と一緒に生きてくれません。そこから同友会の共に育つという、人間尊重経営が明らかになりました。

さらに、問題は社長の為の経営指針でなく、社員の為の経営指針を作ることが一番大きなポイントでした。社員が自発的に動かないと、会社が良くならないということです。



## 自立的な企業づくり

まず「自立型人間を作らないと、全社一丸の企業づくりができない」というところから始まった同友会は、「自立」を一番大事にしています。自立的な企業づくりということでは、旭電機化成(株) (大阪)は、阪神大震災で生活便利品の大切さを実感。本業とするプラスチック加工は、リーマンショックで売り上げ9割減になりました。ですが売り上げの3割だった利益率のよい生活便利品(自社ブランド)があったおかげで、社員を解雇せずすみしました。それは価格決定権をもつ商品があったからです。

さらに自立を目指す中で、1977年に労使見解からの経営指針成文化運動を提唱します。当時はすべての企業に強みがありました。ですが10年経つと環境変化で弱みに変わります。今だと新製品が半年で落ち込むぐらい環境の変化が激しい時代です。企業の本来持っている力を見つけるのが、経営指針の取り組みです。

## 21世紀型中小企業とは何か

労使見解を実践する中からNOといわない企業、何でも引き受ける企業が生き残りました。さらに経営指針の確立と実践の中で、社員の創意や自主性が十分に発揮される質の高い企業づくりから、NOといえる自社の製品・サービスに、自信をもった企業づくりにつながっていきました。

ここで間違えないでいただきたいのは、NOといえない企業がつぶれ、NOといわずにできる方法を考える企業が生き残ったことです。お客様の信頼に応え信用され、オンリーワン分野を生み出す。そうすると価格決定権をもつことができ、NOといえる部分が出てくる。それが経営指針の取り組みの中から生まれてきた成果でした。

そして「環境の変化に対応できる」企業づくりから「どんな時代でも通用する」企業として、93年に中同協は21世紀型企業づくりを提唱しました。いつでも相手にとってのオンリーワンでいる、決して誰にとってもオンリーワンでなくていい。要するに価格決定権をもつ企業づくりの追求が、21世紀型企業づくりの追求だとわかってきました。ではどうすれば21世紀型企業をつくれるのでしょうか？

## 人を生かす経営へ

70%の能力の人が100%の仕事をして、それは70%です。70%の人を120%にしてあげないと、成果が上がりません。120%の仕事をやるためには、「その気」にさせることです。

「木」は生まれた地形に近い環境だと1000年もつといいです。木でさえその気になったらできるのですから、人間だってできるのではないのでしょうか。

㈱文化堂(東京)は、当時小中学校の中退生を採用していましたが、レジが打てませんでした。そこで100点取れるテストを2年間毎日行くと、徐々に本人が自信を持ちました。人は「あなたにもいいところがある」といわれたら伸びます。「労使見解」の精神を生かした経営指針の実践により、人が育ち、活力が増し、継続的な安定性を確保し発展していきます。また、人を生かす経営をする企業を地域に多くつくれば、連帯して仕事と雇用をつくれます。これが今一番大きな地域貢献です。

## 三つの目的の総合実践＝同友会型企业

同友会運動の到達点を一言でいうと、「潰れない企業⇒全社一丸⇒労使見解の実践⇒人を生かす経営⇒三つの目的の総合実践」が、社員をパートナーとする同友会型企业づくりの到達点です。

大企業依存型の海外展開主体の経済から、内需主導型経済への転換が必要な時代に入り、東京一極集中の経済で日本は困っています。国際展開企業には地域は儲けの道具であり、進出・撤退は簡単に行ってしまう。多様な地域のニーズにこたえるのは、中小企業しかないと思います。

また、経産省も学者も生産性を上げろといいますが、しかし地域で生産性を上げようとすると、高齢化が進んでいるので機械化するしかありません。実際に機械化して大量生産しても売れない現実がありますし、海外に売ろうとしても値段では競争になりません。地域では大量生産ではなく、地域のものを活かして付加価値を上げる。要するにその地域の特徴を活かし加工する。加工するのはその地域の人です。

人口減少時代に「景気が良い」ということは、お客様がたくさん来てくれること。逆にいえばお客様がたくさん来るような企業をつくれれば、地域が良くなるということです。ですから、お客様をたくさん作れる企業は、地域環境を改善する企業といえます。政治的に憲章・条例をつくるだけではなく、同時にお客様がたくさん来る企業をつくるのが、同友会の三つの目的の総合実践です。

東京一極集中が悪いとはいませんが、その結果として税収不足、少子高齢化、地方の疲弊が起きました。

どう考えても逆であって、地域の疲弊を解消したら、税収も少子高齢化も改善すると思います。

## さらに今後の方向を考えてみる

お金を外に出さないことが大事です。衰退する地域の中で、外から移入しているものの代替をつくり、反対に加工して外に

売っていかないとだんだん衰退します。山形県の地域経済で言えば、稼いでいるのは農林水産業と製造業だけです。商業もサービスも運輸・通信・電気・ガス・水道・金融・保険・工業も外から買っています。この代わりを作ればいいわけです。

また、少子高齢化が進む地域では付加価値を上げる必要がありますし、付加価値を上げる前に地域でお金を循環させる必要があります。

お金を循環させる為の仕事として、人間に最低必要なもの<衣・食・住>がありましたが、今は<医療・職業・居場所>に変化しています。また、地域での仕事の主要な分野が、「介護、健康、環境、補修、安全・安心、食料、エネルギー、観光」に変わってきています。

「生きる」を支援するようになると、仕事がいっぱい見つかります。そう捉えたうえで、自社の得意なところを絞っていけば新しいものはたくさん見つかります。また、一人ではできなければ、理念を共有して一緒に取り組むこともできます。

付加価値を上げるためには他にないものがありますし、他にないもののために、地域資源に付加価値をつける。地域資源に付加価値をつけられるのは誰か？それは理念の中に「地域をよくしたい」とある企業です。

経営の目的は儲けることではなく、人が生きることによって貢献できる企業を作る。そのために儲かる企業づくりが必要だと社員全員で理解する。それができて「あの企業があってよかった」と、地域から感謝される企業がつぶれない企業づくりの目標ではないかと思えます。

総会議案に2017年問題を公表しています。2017年問題とは、①「日銀の緩和限界」②「消費税10%」③「団塊の世代が70歳代突入」です。①に対しては、今から資金繰り・資金計画をしっかりやっていただきたい。②は以前消費税が8%に上がった時に、景気が4期マイナスになりました。経済はトレンドですが、消費はマインドです。そのマインドの低下が見えていますので、今から売り上げ減への対応をしなくてはなりません。③は、廃業している企業の54%は後継者不足が原因です。それは得意先がなくなることを意味しています。代替生産と販路拡大ということですが、今年中に是非進めていただきたい。

全国の同友会メンバーが様々な取り組みをしています。聞きに行ったり真似をしていただければ、これからの展望はいくらでもピンチをチャンスに変えられると思います。



# 人を生かす経営の実践で、地域の明るい未来を創りだそう



2月18日から19日にかけて「人を生かす経営の実践で、地域の明るい未来をつくりだそう～21世紀型中小企業づくりですべての地域に同友会理念を～」をテーマに第46回中小企業問題全国研究集会が香川県高松市で開催されました。全国の同友会と中同協から1300名が集い、山形からも4名が参加しました。



一日目は「情勢・平和問題」「国際展開・第2創業・業種別戦略」「人を生かす経営の実践」「震災復興・経営環境の改善」「エネルギーシフト・企業連携」のカテゴリーで19の分科会が行われました。

地域再生が大きな課題となっている今、中小企業の役割はますます大きくなっています。参加者は時代認識を持ち環境変化に対応できる強い体質の企業づくりを進めるために報告とグループ討論で学び合いました。

その後の懇親会では「うどん県」として有名な香川県らしく、讃岐うどんの実演が披露され、分科会ごとに全国の仲間と交流を深めました。

二日目の全体会では分科会報告の後、記念講演が行われ、徳武産業(株)代表取締役会長の十河孝男氏(香川同友会会員)が「足元に笑顔を届ける会社～軌跡を起こしたピンクの靴～業績ではなく継続を目指して歩みつづける」を題として講演。

1957年創業の同社は手袋縫製の下請工場からスリッパ、ルームシューズのOEMと時代とともに軸足を移してきました。しかし、OEMビジネスは取引先の担当者が替わるたび、変化を迫られます。そんな時、知り合いの老人施設の経営者から「入所者のころばない靴を作れないか」との相談を受け、靴づくりを始めます。

靴の開発には試行錯誤を繰り返しながら高齢者500名にモニタリングを行ったといいます。その結果、自社ブランドのケアシューズ「あゆみ」が完成。そして、お客さんの要望から靴業界では非常識な左右別々のサイズや仕様の靴の製造・販売を確立します。弁理士さんから左右サイズ違いや片足販売は他にないので特許を勧められましたがしませんでした。今、介護シューズ業界では常識化し15社が競合していますが、十河氏は「損得ではなく、善悪で判断したことを誇りに思う」と語ります。

同社ではお客様に寄り添うサービスで一人ひとりに合った靴を追求すると同時に、購入したお客様には「まごころはがき」という社員の手書きメッセージを添えて送っています。毎日、「歩みシューズのおかげで歩けるようになった」といったお客様からの感謝の手紙が届きます。数々の困難を乗り越え「日本一のありがとうの数が私たちの勲章」と語る十河氏の喜びを分かち合う経営実践に、何のために経営しているのかを改めて問いかけ、会場は感動の拍手でいっぱいになりました。



# 経営計画づくりを考え合い経営指針づくりを学ぶ

3月に開講する「第21期経営指針を知る会」に向けて2月5日、「経営指針を知る会」(経営指針委員会主催)が山形県産業創造支援センターに於いて開かれ、28名が参加しました。本会は目標を持って計画的に経営を行うための経営計画づくりを考え合い、同友会らしい経営指針に触れる機会とすることを目的に行われました。



はじめに、小川大輔氏(㈱カーサービス山形代表取締役)が、「経営計画づくり」について講義しました。

モータリゼーションを背景に、同社は車の販売台数を目標とした計画で発展してきました。年度計画は前年比より数%アップ。全体の目標台数が決まると各拠点に分配し、営業マン一人当たりの目標台数が決まります。会社はフォローしますが、社員は徐々に疲弊してきたといいます。近年では市場規模の縮小により整備や自動車販売に付随する収益目標も計画に盛り込む必要が出てきました。しかし、それも数字を並べるだけで、社員にはやらされ感が残り、若手社員が定着しにくい会社になっていきました。

悩んでいた時、同友会に入会し経営指針を作成。何のための目標数値なのか、なぜこの数値が必要なのかを社員に説明し、共通理解をしていくことが経営計画であり、数字の根拠を分かるように説明するのが経営者の仕事と学びました。経営指針発表会後の社員のアンケートには「会社の方向性となぜこの数値目標なのか理解できた」「具体的な行動が書いてあるので分かりやすい」とありました。

小川氏は「社員と共に仕事をしていく上で経営計画が単なる数字だけではうまくいかない。その数値の上にある「なぜ」を考えていくことが経営計画と思う。社員のやりがい・働き甲斐、企業の社会的責任の徹底を追求した経営計画づくりをしていきたい」と語りました。

続いて、佐藤啓氏(㈱サニックス代表取締役)が、「同友会の経営指針とは？」と題して自らの経営実践を語りました。

佐藤氏は「約20人の自動車整備工場が経営統合により48名の㈱サニックスという会社になったが、歴史も企業

文化も違う会社と一緒にあったためにバラバラだった。何とかまとまりのある会社になりたい」と経営指針を受講した経緯を紹介。

経営指針作成の過程では何のための仕事なのか？自社の存在意義は何か？社会的使命は何か？経営者の責任は？徹底的に自分に問いかけてきた。頭で考えるより心で見えないものを考え、目に見えない価値に気づくことが理念づくりのポイントになった。理念は経営姿勢の確立、第二創業の始まりになるもの。同友会のめざす経営指針づくりは自立型企業づくりと自主的社員の育成。それには人を生かす経営が重要で社員をパートナーと捉え、経営者と社員が共に成長していく。そういう企業が発展すると説明しました。

「全社一丸体制づくりは価値観を合わせ、理念を共有することだが、理念を唱えただけでは出来ない。それに基づく行動が重要。社員を巻き込みながら活力朝礼、5S活動、インターンシップに取り組んできたことで一体感が生まれてきた。社長一人で考えてやらせたのでは会社は成長しない。経営者も社員も共に育つことが会社の発展につながる」と強調しました。



グループ討論では参加者の経営課題を明らかにし、解決に向けてどう取り組んでいくかについて考え合いました。そして、昨年の第20期経営指針をつくる会を修了した木村洋祐氏(㈱木村ぶつだん専務取締役)が、自らの体験から前に進むことの大切さを語り、参加者に経営指針づくりへの参加を呼びかけました。



# 山形同友会! 未来へ向けて、新たに!!

～より地域に必要な存在へ～

日時

2016年 4月21日(木) 受付/13:00  
開会/13:30

|     |         |             |
|-----|---------|-------------|
| 第1部 | 定時総会    | 13:30～14:35 |
| 第2部 | 記念講演    | 14:45～16:30 |
|     | グループ討論  | 16:45～18:45 |
| 第3部 | 懇親パーティー | 19:00～20:30 |

会場

パレスグランデール 山形市荒楯町1-17-40  
☎023-633-3313

参加費

第1部 (定時総会) **無料**  
第2部 (記念講演・グループ討論) 2,000円  
第3部 (懇親パーティー) 6,000円

記念講演

## 「夕日を釣り上げた男」

～弱小水族館の再生物語～

講師: 加茂水族館 前館長 村上龍男氏

### 実行委員長あいさつ



第32回定時総会  
実行委員長  
高橋 明

この度、第32回定時総会の実行委員長を仰せつかりました、有限会社グッピー園の高橋と申します。

山形同友会は記念すべき創立30周年を迎えました。2016年度は「山形同友会! 未来へ向けて、新たに!!～より地域に必要な存在へ～」というスローガンのもと、新たな10年の幕開けに相応しい定時総会にするべく精一杯頑張りたいと思います。

さて、今回の記念講演は「夕日を釣り上げた男」と題し、加茂水族館前館長の村上龍男氏をお招きしてご講演をいただきます。

来館者数が伸びず長年低迷を続け、何度となく閉館の危機に見舞われた加茂水族館をクラゲに特化した展示によって再生させ、世界的に名を知らしめるまでに押し上げた立役者であります。村上氏ご自身も加茂水族館と共に波瀾万丈の人生を歩まれてきました。そこで培われた覚悟と熱い思いは、きっと我々にダイレクトに伝わってきます。

閉館寸前の弱小水族館がクラゲを選択、スタッフが一致団結し研究を重ね、クラゲに特化した展示を始め、現在の新館を築くまでは、胸を打たれる様々なドラマがありました。

そんな「再生物語」は我々経営者のみならず、現場で悩まれている社員さんなども明るいヒントが見つけれられると思います。

いろんな意味で皆様が、勇気をもって一步踏み出すきっかけとなる定時総会になれば幸いです。

皆様のご参加を心よりお待ちしております!

# 3月例会のご案内

・どの支部の例会にも参加できます。・月に一度は参加しましょう。

## 山形支部

### 同友会を活かし、会社を生かす ～同友会で学ぶということ～

2016.3.15(火)18:30～21:00

場所：山形ビッグウイング

山形市平久保100 ☎023-635-3100

報告者：楳東北消防設備 代表取締役 松田 浩氏 (山形同友会元代表理事)

二代目として入社した当時は、次々と出てくる問題の対応に追われ、何のために経営しているのかも分からない状況でした。悩んでいる時、同友会に入会。

社員教育活動に参画し、「労使見解」を学び、経営者としての覚悟を腹に据えます。経営理念を深く再考しながらの実践、そして社員が能力を発揮できる環境づくりに力を入れ、同友会がめざす企業づくりに取り組んできました。会社は生きる上での一部として、自分達の職場は自分達で知恵を絞ってより良い方向に変えようと自主的に活動しています。

「社員教育は、社長教育」と語る松田社長の報告をもとに、人が育ち成長する企業づくりについて考え合います。お誘い合わせの上、ご参加ください。

## 寒河江支部

### 会社は地域に何を残すのか？ ～念いをのせて～

2016.3.9(水)19:00～21:00

場所：寒河江市技術交流プラザ

寒河江市中央工業団地153-1 ☎0237-86-1991

報告者：ソーラーワールド(株) 代表取締役 武内賢二氏

新聞に「太陽熱温水器」の記事を見つけたある朝、全身に衝撃が走り、自分がやるべきことはこれだと、その日のうちに5年勤めた会社を辞めて転職。7年間の経験を積むも営業方針の違いから退職。

そして、一冊の本との出会いがきっかけで創業に到ります。資金面・営業面での苦労はあったが、東日本大震災以降、ソーラーパネルが売れる時代に。従業員も増え、経営を見直す必要から昨年経営指針書を作成し、「商品だけでは捨てられる。自然エネルギーの真の普及が私の使命」と語る武内氏の報告から企業の社会性について考え合います。

## さくらんぼ支部

### 経営は九つ転び十起き ～なぜ期待をかけても辞める社員はいるのか～

2016.3.18(金)18:30～21:00

場所：さくらんぼタントクルセンター 2F

東根市中央1-5-1 ☎0237-43-1155

報告者：(有)東住宅産業 常務取締役 白鳥明美氏

結婚を機に(有)東住宅産業に入社。そして、全く逆の立場の経営陣の一員となり戸惑う白鳥氏の前で、期待をかけていた社員が辞めるなど、次々と問題が起ります。

同友会に入会後、大切なことは何かを考え経営指針書を作成。任せることを大切に、社員と共に学び歩んできました。一人ひとりの成長を願って資格取得を推奨してきましたが、ある日「その資格は業績アップにつながるの？」という疑問を投げかけられ考え込んでしまいます。

一つずつ問題に真正面から向き合い乗り越えてきた白鳥氏の問題提起をもとに、社員が自主性を発揮するための権限委譲と自発的管理、能力を高める制度について考え合います。

お誘い合わせの上、ご参加ください。

## 置賜支部

### 「待ち工場」からの脱却、ただいま挑戦中!

2016.3.24(木)18:30

場所：伝国の社

米沢市丸の内1-2-1 ☎0238-26-8000

報告者：(株)奥田製作所 取締役管理部長 奥田孝広氏

出版業界を取り巻く環境が激変する中、売上の9割を占める主力商品である製本機械の需要が大きく落ち込み始め、新しい仕事の受注を獲得する必要に迫られます。

営業経験もない中、商談会や人伝に手探りで新規顧客の獲得に乗り出します。しかし、すぐに壁につき当たります。自社の強み、セールスポイントは何なんだろう？ 他社との違いを打ち出せず、営業に苦慮する日々が続きます。悩みながらも、主力商品を設計から加工、組立まで一貫生産してきた経験から小ロットの多様な製品作りにも対応出きる、提案型の営業スタイルを確立していきます。顧客からの受注をただ待つ「待ち工場」から、自らが動く、攻めの企業へ。単なる製造業からサービス業への意識変革に挑戦している奥田氏の報告を通して、環境の変化に対応出来る会社づくりを学びあいます。

## 庄内支部

### 未来に向けてチャレンジしていますか？

2016.3.24(木)18:30～

場所：鶴岡市総合保険福祉センター「にこ♥ふる」

鶴岡市泉町5-30 ☎0235-25-2731

報告者：(株)アイディア 代表取締役 北風秀明氏

タウン誌や広告事業を主な生業とする(株)アイディア北風社長。創業から一心不乱に仕事をして会社も売上も伸びてきた矢先、リーマンショックや東日本大震災、フェイスブック等のSNSの台頭が広告収入を苦しみ、それだけで会社を維持するのは難しいと限界を感じ始めます。そんな時に「社会的企業家」の考え方に出会い、今では「庄内を元気に」という理念を社員と共有し、「月山ハーモニーパーク」、「鶴岡市民農園」、「さんのう夢食堂」を経営。その転換となった発想や考え方、行動するに至るまでのチャレンジ精神を学びます。2年ぶりとなる北風社長の報告です、ゲストさんお誘いあわせのうえ、是非ご参加ください。

## 新庄最上支部

2016.3.29(火)18:15～

場所：ゆめりあ

新庄市多門町1番2号 ☎0233-28-8888

報告者：共栄印刷(株) 代表取締役 涌井洋一氏

※詳細については、後日e.doyuでご案内します。

# 第11回理事会報告

◆日時:2016年2月15日(月)午後2時~午後4時 ◆会場:山形県産業創造支援センター ◆議長:青柳副代表理事  
◆出席者(敬称略):青柳等、阿部秀顕、安藤昌則、越前屋忍、大場賢二、川合勝芳、菊池幸生、後藤智樹、西塔秀幸、  
齋藤志直、菅原茂秋、高橋明、玉津弘之、長澤武、若木義寛、事務局矢作、高橋(理事15名出席)

## ■開会挨拶(西塔代表理事)

「30周年記念式典を終えたが、これからがスタートで大切な時期にあたる。同友会の発展のために活発な意見の交換をし、他の方々の意見を尊重し、会の団結を保っていきましょう」と述べました。

## ■報告事項

- 1)中同協・人を生かす経営4委員会合同会議(1/29~30)  
(阿部理事より文書報告)
- 2)東北文教大学「企業研究会」(2/10)(後藤副代表理事)  
同大学の就職課との交流の位置づけで参加し、模擬面接官の依頼を受け面接指導を行ってきた。
- 3)「2016連合山形地域フォーラム」のパネリスト依頼  
(西塔代表理事)  
連合山形との交流から「2016連合山形地域フォーラム」のパネリストの依頼があり、西塔代表理事が受けることになった。
- 4)山形県企業振興公社「山形県プロフェッショナル人材戦略事業」の協力依頼(西塔代表理事)  
「山形県プロフェッショナル人材戦略事業」の協力依頼を受諾することになりました。
- 5)山形商工会議所「会員名簿に関する交流」依頼(西塔代表理事)  
相互発展のため名簿交換の依頼を受けたが会員名簿は外部へ発信していないため今回の申し出はお断りする。
- 6)第三者委員会の件(齋藤専務理事)  
第三者委員会からは3月理事会で報告となる。
- 7)2016年1月月次決算報告(矢作事務局次長)

■承認事項(入退会承認) 6名入会 7名退会 2/15現在 453名

## ■討議事項

### 議題1:30周年記念式典のまとめについて

菅原実行委員長より、30周年記念式典のまとめと収支報告があり確認された。

### 議題2:増強の取り組みについて

安藤理事が「委員会だよりは各委員長・部会長に原稿を依頼している状況。今期目標の500名はまだ未達であり継続して進めていきましょう」と述べた後、下記についての提案があり決定しました。

- ・同友会PR用メインパンフレットを新しく作成する
- ・新年度も4月より新会員オリエンテーションを毎月開催
- ・2016年度組織委員会は各支部長、委員長、部会長で組織し、理事会前に委員会を開き、情報を共有化する体制とする。

### 議題3:議案書(案)について(提案:西塔代表理事)

- 1)2015年度活動のまとめ(案)次回継続検討
- 2)2016年度活動方針(案)次回継続検討
- 3)2016年度事業計画(案)次回継続検討
- 4)2016年度予算(案)次回継続検討

### 議題4:2016年度役員体制について(提案:西塔代表理事)

・役員案の件 継続審議となります。

## ・公募の件

現理事会運営規程に基づき文書を作成し、同友ニュース3月号に同封、同時にe.doyu掲示板にて公募します。

公募期間:3/1(火)~3/14(月)

### 議題5:役員選考委員選出の件(提案:西塔代表理事)

下記の7名の推薦があり承認されました。

常任理事会:青柳氏 山形支部:荒氏 寒河江支部:佐藤氏  
さくらんぼ支部:菊地氏 置賜支部:長澤氏  
庄内支部:北風氏 新庄最上支部:田中氏

### 議題6:第32回定時総会の開催について

実行委員長の高橋理事より下記の開催要項が提案され承認しました。また、各支部の参加目標が決まりました。

#### 1)開催要項について

●スローガン 山形同友会! 未来へ向けて、新たに!!  
~より地域に必要な存在へ~

●日時:2016年4月21日(木)

受付:午後1時 午後1時30分開会

●会場:パレスグランドール

●記念講演

講師:加 茂水族館 前館長 村上龍男氏

テーマ:夕日を釣り上げた男~弱小水族館の再生物語~

・参加目標 180名

山形支部100名

寒河江支部・さくらんぼ支部・置賜支部 各20名

庄内支部15名 新庄最上支部5名

#### 2)予算(案)について

参加費2部(記念講演)2,000円

3部(懇親パーティー)6,000円で決定

### 議題7:事務局員採用について(提案:西塔代表理事)

面接・適正検査の結果、正事務局員に1名、短時間事務局員に1名採用するとの提案があり承認されました。

### 議題8:事務局人事について(提案:西塔代表理事)

事務局長が退職したため矢作事務局次長が事務局長代行となり、4月より事務局長となることが提案され承認されました。

## ■その他

1)宮城同友会主催「経営者と就職部担当者の就職懇談会」(2/16)

\*出席予定:玉津委員長、事務局矢作

2)東日本大震災復興シンポジウム

(3/10~11 福島・宮城)について

3)第12回理事会日程

●日時:3月7日(月)14:00~16:30

●会場:山形ビッグウイング

## ■閉会挨拶 (菅原副代表理事)

## ◎川口育美氏

山形運送(株) 代表取締役  
運送業  
山形支部

## ◎横山隆太氏

愛和建设(株) 専務取締役  
総合建設業  
山形支部

## ◎伊藤やよい氏

八松園(株) 常務取締役  
造園・エクステリア設計工事  
寒河江支部

## ◎齋藤嘉廣氏

岡崎医療(株) 代表取締役社長  
医療機器販売・調剤薬局営業  
山形支部

## ◎與田貴博氏

(株)山形ビルサービス 常務取締役  
総合ビルメンテナンス業  
山形支部

## ◎兼子祐喜氏

丸喜屋設備(株) 代表取締役専務  
住宅設備・増改築工事  
さくらんぼ支部



新会員  
紹介

同友やまがた3月号(2016年3月1日発行/通巻276号)

From Editor



“知り合い、学び合い、援け合い”  
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号  
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583  
URL:http://yamagata.doyu.jp/ E-mail:info@yamagata-doyu.jp